

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 1 区分
 【発行日】平成 18 年 4 月 6 日 (2006.4.6)

【公開番号】特開 2004-63444 (P2004-63444A)
 【公開日】平成 16 年 2 月 26 日 (2004.2.26)
 【年通号数】公開・登録公報 2004-008
 【出願番号】特願 2003-44166 (P2003-44166)
 【国際特許分類】

H 0 1 J 35/10 (2006.01)

【F I】

H 0 1 J 35/10 N

【手続補正書】
 【提出日】平成 18 年 2 月 14 日 (2006.2.14)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】特許請求の範囲
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

円盤状のターゲット、ターゲットを支持するロータ、ロータを支持する回転軸、回転軸を回転自在に支持する軸受、および軸受を支持する固定部を有する回転陽極と、電子流を放出してターゲット上に X 線源となる焦点を形成する陰極と、回転陽極と陰極とを絶縁支持し真空気密に封入する外囲器とを具備する回転陽極 X 線管を、防 X 線・防電撃構造の X 線管容器内に絶縁支持して収納する X 線管装置において、前記ロータは、ターゲットを支持するターゲット支持部と、該ターゲット支持部に一端において接合され、他端において前記回転軸に支持され、前記ターゲット支持部よりも機械的強度の大きい金属材料から成る断熱部と、該断熱部のターゲット支持部との接合部とほぼ同じ外径の円筒形状をしており、該断熱部に接続され、その断熱部よりも導電率の大きい金属材料から成る円筒部とから構成され、前記ターゲット支持部はターゲットを支持する細径部と、前記断熱部に接合される大径部とを有し、該大径部側に前記断熱部の大部分を収容する円形穴を備えており、前記断熱部はターゲット支持部の大径部に接合されるフランジ部と、前記ターゲット支持部からの伝熱を減少させるための薄肉円筒部と、該薄肉円筒部の底を形成し前記回転軸と結合される平面部とを有し、前記ターゲット支持部と前記断熱部の接合部では、両者が互いに噛み合う円環状の突起（以下、円環歯部という）を一方が 2 個以上、他方が 1 個以上持ち、一方の 2 個の円環歯部の間に他方の 1 個の円環歯部が嵌合した状態であろう付けされていることを特徴とする X 線管装置。

【請求項 2】

X 線管装置と X 線検出器とを被検体が挿入される開口部を挟んで対向配置して搭載した走査ガントリと、前記 X 線管装置に高電圧負荷を印加する X 線コントローラと、寝載した被検体を前記開口部に挿入する撮影テーブルと、前記走査ガントリ、前記 X 線コントローラ及び前記撮影テーブルを制御し、前記 X 線検出器で収集した X 線計測データに基づいて被検体の断層画像を再構成する操作コンソールとを具備する X 線 CT 装置において、前記 X 線管装置が請求項 1 に記載の X 線管装置であることを特徴とする X 線 CT 装置。